

家畜市場 価格の推移 (9月)

▼子牛価格(三次家畜市場)

(単位:円・頭・kg・%)

種類	入場頭数	成立頭数	取引率	最高価格	最低価格	平均価格	体重	
スモール	雌	10	8	80.0%	193,320	1,080	46,872	56
	雄	146	144	98.6%	141,480	2,160	89,351	62
計	156	152	97.4%	193,320	1,080	86,628	62	
F1	雌	215	196	91.2%	331,560	54,000	226,805	65
	雄	208	197	94.7%	413,640	11,880	273,391	67
計	423	393	92.9%	413,640	11,880	249,712	66	
ホルス(5才) 雌	22	22	100.0%	342,360	91,800	197,837	716	

▼搾乳素牛価格(北海道)

(単位:円・頭)

市場	開催日	出場頭数	成立頭数	成立率	最高価格	最低価格	平均価格
十勝	12日	537	402	74.9%	1,488,240	437,400	874,308
釧路	13日	219	156	71.2%	1,001,160	543,240	819,713
根室	14日	399	326	81.7%	1,078,920	363,960	852,306
豊富	15日	330	218	66.1%	1,080,000	436,320	840,592
十勝	27日	521	410	78.7%	1,385,640	548,640	882,147
北見	28日	367	284	77.4%	1,054,080	504,360	876,937
合計		2,373	1,796	75.7%	1,488,240	363,960	857,667

業務報告 (9月分)

- 1日 動物感染症防疫講習
- 4日 東部地域地区懇談会
- 5日 三原市酪農振興会共進会
- 6日 西部地域地区懇談会
- 7日 高宮地域地区懇談会
- 8日 乳代精算システムあり方検討会
- 9日 福山地方酪農協議会共進会
- 10日 南部地域地区懇談会
- 11日 生乳安全・安心中国地域協議会
- 12日 備北地域地区懇談会
- 13日 WCS刈取機械乗務員研修
- 14日 広酪ホルスタイン改良同志会役員会
- 15日 三原地域地区懇談会
- 16日 J A会計基礎研修 (十四日迄)
- 17日 全酪連管外酪農事情視察研修 (十五日迄)
- 18日 広島県農協農政協議会
- 19日 J A改革本部推進委員会
- 20日 H A C C P 研修会
- 21日 ひろく若齢預託育成事業実行委員会
- 22日 D M S 職員研修会
- 23日 第七回理事会
- 24日 ヘルパー調整会議
- 25日 牛群検定ブロック会議 (二十一日迄)
- 26日 J A合併専門検討委員会
- 27日 中四国削蹄協議大会
- 28日 牛乳ポスターコンクール審査会
- 29日 乳代精算システムあり方検討会
- 30日 酪農青年女性会議三役・事務局会議
- 31日 広酪メンバーズクラブ役員会
- 32日 全酪連中堅職員研修 (二十七日迄)
- 33日 安芸高田市酪農振興会会議
- 34日 牛乳料理コンクール書類審査会
- 35日 北広島町畜産部会
- 36日 N O S A ー西部家畜診療所運営会議
- 37日 畜産技術センター共同研究成果発表
- 38日 実地棚卸監査
- 39日 山陽乳業(株)棚卸監査

編集後記



- ▼十月十日、「第四十八回衆議院総選挙」が公示され、二十二日の投票日まで立候補者や支援団体関係者等による選挙戦が繰り広げられました。
- ▼今回の選挙に際して、東京都知事の小池百合子代表の「希望の党」の参入もあり、政権運営を問う選挙戦は、「自民・公明」「希望の党・日本維新の会」「共産・立憲民主・社民」による三つどもえの構図となりました。
- ▼投票権者は日本国の将来を託す立候補者の主張を聴き、自らの清き一票を投じられたものと存じます。
- ▼厳しい選挙戦を乗り越えて、当選した議員には、工業、商業、農畜林業などバランスのとれた物心両面から豊かな日本になる政治を期待します。決して、国民から私物化との指摘が無きように。
- ▼加工原料乳補給金制度は、先の改正で畜安法に盛り込まれ、この施行は、実質的に平成三十年四月から始まります。現在、この制度の運用において、政省令の骨格が明らかとなりつつあります。
- ▼酪農家は、一定の補給金交付にかかる制約はあるものの、指定事業者に対して自由な生乳販売を可能としています。広酪の上部団体の中国生乳販連では、今後、国による指定事業者の認可を得るべく手続きを進める予定です。
- ▼広酪では、十二月以降より新たな生乳受託契約をもって生乳出荷組合員を訪問し説明にあたり、契約締結を進めさせて戴く予定です。
- ▼ここでポイントになるのが、生乳出荷組合員には、平成三十年四月以降の販

市町別生乳受託量の進捗状況(9月)

(単位:トン)

市町名	生乳生産量	生産占有率	前年比(同月)	29年度累計	前年比(累計)
庄原市	847.4	22.7%	96.7%	5,361.8	96.8%
三次市	646.7	17.3%	97.9%	4,081.2	95.6%
世羅町	605.6	16.2%	101.1%	3,618.5	101.7%
北広島町	426.3	11.4%	104.7%	2,818.8	107.6%
安芸高田市	351.4	9.4%	98.6%	2,308.7	100.9%
東広島市	312.3	8.4%	100.0%	1,929.7	95.5%
府中市	200.7	5.4%	92.5%	1,280.4	98.0%
福山市	118.7	3.2%	101.2%	791.0	102.8%
広島市	80.8	2.2%	93.7%	487.5	93.3%
三原市	78.8	2.1%	87.0%	484.6	82.5%
呉市	48.2	1.3%	101.6%	318.6	101.2%
神石高原町	20.1	0.5%	30.4%	152.0	35.4%
合計	3,736.9	100.0%	97.4%	23,632.7	97.5%

プール乳価(9月分)

プール乳価	111.204円
前月分プール乳価	110.071円
前月対比	101.02%

生乳生産量など前年同期比較(9月分)

前年対比区分	戸数	構成比	増産乳量(kg)
生乳生産量が100%以上に達した組合員戸数	57戸	44.5%	242,833.3
生乳生産量が100%未満となった組合員戸数	71戸	55.5%	-250,133.1
合計	128戸	100.0%	-7,299.8

注)この比較は、平成29年9月の生乳出荷のあった組合員を基準に示しています。
(廃業組合員は含まない)

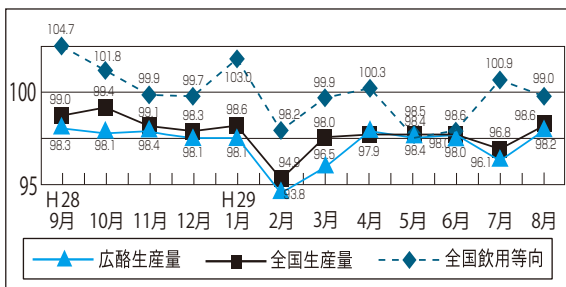
生乳受託実績(9月)

地域	備北	南部	西部	東部	合計
生乳出荷組合員戸数(戸)	39	12	40	37	128
生乳出荷量(ト)	1,342.4	360.5	858.4	1,175.5	3,736.9
前年同月対比(%)	97.1%	100.2%	101.0%	94.5%	97.4%
前月対比(%)	99.2%	98.2%	94.5%	98.4%	97.8%
生乳出荷累計(ト)	8,461.1	2,248.3	5,615.0	7,308.3	23,632.7
広酪構成比(%)	35.8%	9.5%	23.8%	30.9%	100.0%

市町別の生乳出荷組合員による購買品利用高の状況(8月)

No	市町名	購買品利用高(千円)	生乳出荷量(ト)	購買品利用占有率	生乳1kg当たりの購買品利用高(円)
1	庄原市	47,521	862	30.7%	55.1
2	三次市	35,743	642	23.1%	55.7
3	安芸高田市	18,275	365	11.8%	50.1
4	府中市	13,963	205	9.0%	68.1
5	北広島町	13,926	461	9.0%	30.2
6	世羅町	6,595	611	4.3%	10.8
7	福山市	5,756	121	3.7%	47.6
8	東広島市	5,259	312	3.4%	16.9
9	三原市	4,985	82	3.2%	60.8
10	広島市	1,372	81	0.9%	16.9
11	神石高原町	1,165	21	0.8%	55.5
12	呉市	451	54	0.3%	8.4
合計		155,011	3,817	100.0%	39.7

生乳需給の前年比推移(8月) (単位:%)



- ▼ 売計画数量を書面にて報告して戴き、指定事業者には、この数量を報告する必要がありません。
- ▼ 指定事業者は、この報告数量を集計し国に報告、なおかつ、乳業社との間において生乳取引交渉にあたり、消費者に対しては、需給バランスを確保する等の姿勢をもった対応が求められています。
- ▼ 話題は一転、農水省は二十七年産の水田転作作物の作付け動向をまとめ公表しました。
- ▼ 米粉用米は前年比五十五%増の五千三百七haと拡大、発酵粗飼料(WCS)IIホールクロップサイレージ)用米なども順調に伸びる見通しで、主食用米の需給改善に向けた転作拡大で、飼料用米一辺倒からの脱却が進んでいます。
- ▼ WCS用米は肉牛産地の南九州を中心に伸び、三%増の四万二千八百九十一haで、飼料用米は〇.四%増の九万五千五百五haで過去最高となったそうです。
- ▼ 広酪は、九月十一日から百三十七haに作付けされた飼料用米(WCS)の収穫を開始し、十月十日現在では約五十haの収穫を終えた状況にあります。
- ▼ 昨年は十一月二十二日に全収穫を終えましたが、気がかりなのは、刈取り作業が見上げての天候具合に左右されることです。
- ▼ 収穫量のもとより、作業従事者の皆様に怪我、車両事故が生じないように無事に収穫作業が終了することを願ってやみません。
- (A・N)